

「祝大を受け取る年にしよう！」(2019. 1. 20)

皆さんと共に新しい年に踏み出すことができました。心より主に感謝いたします。

去年は私たちの教会は沢山の祝福を戴きました。あれこれ数えたら結構ありました。まず、雲然先生を迎えた賛美礼拝やモリゴーフォーを迎えた賛美礼拝です。教会にとっては新たなチャレンジでした。内輪だけの礼拝から、ゲストを迎え、外に参加を呼び掛けていく、いわゆる伝道礼拝です。このことを通して、教会の使命にお一人お一人が仕えている、そういう祝福を受け取ることができました。

また、イブ礼拝も大きな恵みでした。Nさんご夫妻の賜物に負うところが大きかったのですが、長老はじめ教会員の皆さんの奉仕の賜物でもあります。考えてみれば気づかないでいる賜物、まだ活かされていない賜物がいっぱいあるのではないか。実は私たち一人ひとりが賜物です。イエス様の命を生きているのですから。だから、みんなが活かされる教会、そんな教会になればもっと大きく成長するのではないかとワクワクします。



実りという面でも沢山の祝福が与えられました。その一端を紹介します。近所に住んでいるIさんです。7月の時、看板を見て教会に来られました。10月の時は案内はがきも送りましたが、来られました。そして12月のイブ礼拝。3人で見えられました。おそらく奥様と娘さんでしょう。神様は「私は新しいことをする！すでに芽生えている！」と言われています。新しい芽生えの一つです。

また、Tさんが転入会された事です。去年3人が転出されました。教会にとっては淋しいことでした。ですから、神様が送って下さったんだなあ、と嬉しく思います。さらに、私の母が受洗の恵みに与ったことです。長年の祈りが叶えられました。神様が私を横手教会に導かれた理由の一つかもしれません。もう一つ挙げたいのは手すりですね。長年、あればいいなあ、という願いが叶えられました。

今年も沢山の祝福が備えられています。その祝福を確実に受け取るために日々御心を求めましょう。今年はいノシシの年です。猪突のように一つの事に夢中になる、これは大事なことです。特に私たち、イエス様を主と仰いで生きる者は、イエス様の御声をよく聞くことが必要です。聖書に親しみ、御言葉を蓄えることです。週報に掲載されている「今週の聖書日課」を活用しましょう。聖書を読むことは祝福、大です。祝大です。差し出されている祝大として、特に今年は、聖書を読む。このことを一緒に心がけましょう。